



ベルリンの壁

株式会社三菱UFJ銀行
取締役副頭取執行役員 中村 昭彦

今を去ること33年前、入社4年目の冬から1年間、欧州通貨のディーリングを学ぶべく西ドイツにあった当行フランクフルト支店に研修生として派遣されました。まずは8ヶ月間地元の語学学校でのドイツ語研修を受け、残りの4ヶ月は支店のディーリングルームで業務研修というメニューでした。

1986年当時、ドイツは自由圏の西ドイツと共産圏の東ドイツに分かれており、ユーロも出来る前だったので通貨もドイツマルクでした。当時1マルクが90円台で、今はユーロになって125円前後なので、「ドイツは通貨安の恩恵を大いに受けた」と言われていますが、それでも以前に比べれば随分高くなった気がします。

さて、語学学校での生活も半分が過ぎた頃、学校の校外学習でベルリンに行って東ドイツに足を踏み入れるというスリリングなカリキュラムがありました。バスで、ベルリン市の中心にある西ドイツ側と東ドイツ側の国境まで行き、歩いて検問所を渡り、つかの間で共産国の雰囲気味わうというものでした。当時、語学学校の授業では「ドイツは一つであるべきだ」との主張がなされていましたが、東西で対立状態にあった街や国家の雰囲気からは、2年後にベルリンの壁が崩壊するとは全く予想できませんでした。しかし、帰国後の1989年11月に壁は崩壊し、ドイツは統一され、今では東ドイツ出身のメルケルさんが首相です。

このように全く予想だにしなかったことが現実になるのを目の当たりにして、いかに自分の常識や先入観が薄っぺらで、世間の多数意見に左右されやすいかを思い知りました。私にも、語学学校の授業で教師が力説していた東西統一国家を信じるチャンスがあったのに、全くの冗談だと思っていました。南北朝鮮の突然の融和もそうです。今起こるとは全く思ってもみませんでした。崩せるはずなのに、そこにある壁を疑いもせず、壁を作っているのは他者ではなく、常に自分自身なのだと痛感します。

人生においても、仕事においても、自分の中にある壁を乗り越え続けていきたいものです。現在、中経連での委員会をはじめ、中部の将来像を議論する機会があり、悲観論もなくはありませんが、「壁をいつか必ず崩そう」という国民の力強い信念でベルリンの壁が崩壊したように、自分の中にある壁を壊し、新たな発想で果敢に実行することができれば、必ずや中部の明るい未来が実現できるのではないかと思います。どんなに高かろうが、崩すのは無理そうであろうが必ず壁は崩せます。そして、思い通りにいかななくてもまずは自分を信じること。そうした信念を持ち、皆様とともに中部経済の発展に尽くして参りたいと思います。